

こどもと健康

NO・137 2013・7・25

手足口病流行中！

夏型感染症の手足口病が気温の上昇と共に流行し、大阪府では7月1日からの第27週に第1位となり、第29週には1定点辺り8.0と警報レベルの5を超えています。全国的にも関東を中心に流行しており、大流行した一昨年に次ぐ流行となっています。手足口病は1～2歳を中心に幼児に多く、名前の通り手のひら・足のうら・口腔粘膜に発疹の出る病気で、微熱程度の発熱を伴います。発疹は手足以外にも、足の甲から臀部にかけて丘疹が出るケースも多く、中には水泡を伴う事もあります。今年は発疹が広範囲に広がるケースが多いようです。口内炎は痛みを伴い、ヨダレが出ることもあります。コクサッキーウイルスの感染症ですが、中でも例年はA16型が多いのですが、今年はA6型が検出されるケースが多く、このウイルスは一昨年大流行したウイルスです。その時、治癒してから爪が剥がれるケースがありましたので、今年も注意しましょう。又、高熱を伴う場合はエンテロウイルス71型による手足口病が考えられ、その場合重症化して脳炎・脳症が合併するケースもあります。特別な治療法はありませんが、すっぱいものは避け、口当たりの良い食事を与えましょう。2,3日熱のある間はお休みして、熱が1日なければ、発疹が残っていても保育所・幼稚園には登園可能です。但し、口内炎の為痛くて食欲のない時はお休みして下さい。夏休みになりましたが、保育所での流行が暫く続くものと思われま

風疹の流行次第に減少！

風疹の流行は昨年から関西で成人男子を中心に始まり、年が明けてから関東で、3月からは地方でも流行が拡大しました。風疹は2010年には全国で87例、2011年378例でしたが、昨年には2392例に急増、今年7月14日第28週までに12832例が報告されています。東京都3077例が最多で次いで大阪府2914例、神奈川県1484例、兵庫県1062例と大都市周辺で流行し、最近は大阪府での流行が目立ちます。大阪府では第20週で最大216例の報告がありましたが、7月15日からの第29週では38例まで減少しました。第19～22週は全国で800例を超えていましたが、その後減少に転じ第28週は290例の報告でした。

12832例のうち77%が男性でそのうち30歳代が35%、20歳代が24%、40歳代が23%を占め、女性では20歳代が41%、30歳代が16%を占め、その割合は流行が拡大しても殆んど変化していません。これは1977年～1995年まで中学生女子のみを対象に風疹ワクチンが接種され、その後2003年までは男女ともに接種対象になりましたが接種率が低く、2回目のワクチンがされなかった影響が大きいようです。

風疹は小児がかかれば「三日ばしか」と言われるように、発疹と発熱、リンパ腺腫脹を訴えますが、一般的には軽症で時に、血小板減少性紫斑病や脳炎を合併します。7月7日までに脳炎11例、血小板減少性紫斑病54例が報告されました。成人が罹患すると高熱があって発疹も強く関節痛を伴い長引く傾向があります。特に妊娠初期に罹りますと、胎児が先天性風疹症候群となり、

先天性心疾患、難聴、白内障の他、発育遅延、小眼球等の奇形児が生まれます。妊娠1カ月に感染すると50%、2カ月で35%、3カ月で18%、4ヶ月で8%に先天性風疹症候群が発生すると言われます。先天性風疹症候群は2004年に10例の報告がありましたが、その後7年間で5例に過ぎませんでした。所が昨年秋から今までに13例が報告され、うち2例が大阪府、2例が兵庫県でした。夏以降、先天性風疹症候群の児がもっと増加する恐れがあります。

もうしばらく流行は続きそうです。予防にはワクチン接種しかありませんが、妊婦さんにワクチン接種はできませんので、ご主人始め同居家族が風疹ワクチンを受けるようにして下さい。

堺市では5月23日～9月30日に限り、19歳以上の(1)(2)に当てはまる方に予防接種費用の一部助成制度を始め、自己負担額は1000円です。(1)妊娠を希望する女性(妊娠中はできません)(2)妊娠している女性の配偶者(婚姻関係を問いません)接種ご希望の方は電話で予約をお願いします。

子宮頸癌予防ワクチン、接種勧奨一時中止

本年4月からの予防接種法改正により、定期接種となった子宮頸癌予防ワクチンが複合性局所疼痛症候群(CRPS)の疑い例が報告されたので、一時接種勧奨を中止することになりました。

子宮頸癌予防ワクチン接種後に注射部位に限局しない筋肉痛、関節痛、皮膚の痛み、しびれ等が現れ、長期間持続するCRPS疑い例が5例、慢性疼痛が38例報告されました。これらの慢性疼痛症例やCRPSがワクチンと関連があるのか、詳しく調査分析されますので、結果が出るまで一時接種勧奨を中止することになりました。日赤の献血者でも2009年度に約530万人のうちCRPSは24例発生しており、ワクチン接種者は累計300万人位ですので、必ずしも多いとは言えません。結論が出るまで、当院でも一時中止しますが、既に1回目、2回目の接種が済んでいる人で、希望される方には接種しますので、ご相談下さい。

B型肝炎ワクチンを接種しましょう！

7月28日は「世界肝炎デー」です。本年4月から予防接種法が改正され、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸癌予防ワクチンが定期接種となりました。今後、水痘(みずぼうそう)ワクチン、ムンプス(おたふくかぜ)ワクチン、B型肝炎ワクチン、成人用肺炎球菌ワクチンに拡大されることが期待されます。それまでは任意接種で対応するしかありません。1992年にWHOは加盟国に接種勧奨し、現在では加盟193カ国中177カ国で定期接種化されており、残念ながら日本は数少ない国になっています。日本人の1~2%程度には症状のないキャリア(健康保菌者)がいますが、血液だけでなく唾液、涙、汗、尿、精液等にもウイルスは検出されます。保育所、幼稚園、学校等集団生活により感染する可能性があります。キャリアは数年~数十年後にB型肝炎、肝硬変から肝臓に進行しますが、現在日本では肝臓で亡くなる方が約3万人、その3分の1がB型肝炎によると言われます。B型肝炎ワクチンは癌予防ワクチンと考えられます。幼少期に感染を受けると、キャリア一化しやすいので、早めに接種をしましょう。生後2ヵ月から接種できますが、ヒブ、肺炎球菌、4種混合ワクチンが済んでからでも良いでしょう。

8月の休診のお知らせ

夏期休暇のため、8月7日(水)~21(水)

休診 させていただきます。